

質疑及び一般質問

各議員の質問の中から1問をピックアップし、その要旨を掲載します。
令和7年9月24日、25日、29日に開催された質疑及び一般質問では、次の議員が質問を行いました。

CHECK! 白熱議論を映像でご覧ください!
下の各議員の横にある二次元コードから、掲載の質疑及び一般質問の映像を見ることができます

9月24日 (水)



金井 康夫 自由民主党
(沼田市)



▶こんにゃくの消費拡大に向けた取組について

こんにゃくいもの価格低迷に対する県の認識と、こんにゃくの消費拡大に向けた取組について伺いたい。

A 知事

日本人の食生活の変化等により、こんにゃくの消費は減少している。消費拡大に向けて、県内小中学校への食材提供、生産地の小学校に、ぐんまちゃんの型抜きができる「手作りこんにゃくキット」の配布を計画している。また、こんにゃく生産者とのPR動画や、ネットショッピングでの製品の紹介等も行ってきた。近年では、含有成分であるマンノースが尿路感染症の予防に期待されている。今後も、需要喚起・消費拡大を図りたい。



栗野 好映 つる舞う
(安中市)



▶「群馬パーセントフォーアート※1」について

「群馬パーセントフォーアート」の具体的な取組と、障害のある方々による優れたアート作品の活用を図ることについて伺いたい。

A 地域創生部長

企業とアートを組み合わせた群馬モデル形成事業として(株)SUBARUの工場でのアート作品の展示等を行った。群馬県障害者芸術文化活動センター「こ・ふあん」を運営し、県内企業のギャラリーでの作品展示など福祉に留まらない取組を推進している。優れた作品を生み出す障害のある方を一人のアーティストとして接することが大切であり、自立と社会参加にもつながる取組を支援していきたい。



松本 基志 自由民主党
(高崎市)



▶米国関税措置について

米国関税措置に対する県の受け止めと対策について伺いたい。

A 知事

群馬県は、自動車関連企業が多数集積しており、米国関税措置の影響を最も受ける地域の一つである。また、県内企業からは今後の影響を懸念する声も多い。このことから、制度融資の融資枠拡大や、新分野参入に挑戦する中小企業、農畜産物の輸出に取り組む生産者の後押しも行っていく。また、経済状況の変化に対応するため、デジタル・クリエイティブ産業の創出にも引き続き取り組んでいく。



後藤 克己 リベラル群馬
(高崎市)



▶堤ヶ岡飛行場跡地の活用について

堤ヶ岡からイノベーションを創出するには、スタートアップ支援、研究開発及び交流の拠点が必要と考えるがいかがか。

A 知事

「新しいことは群馬で試す」をコンセプトに「全県リビングラボ」構想の中でスタートアップ支援にも積極的に取り組んでいる。県内企業と欧州スタートアップとのマッチングや群馬からスタートアップを生み出す施策を展開している。新しい技術やアイデアを持つスタートアップ企業、研究機関などが堤ヶ岡に集まり繋がることで、持続的にイノベーションが生まれるよう高崎市と協力していきたい。

9月25日 (木)



追川 徳信 自由民主党
(高崎市)



▶大河ドラマ化される小栗公について

小栗公に対する認識と大河ドラマ化決定に対する思いについて伺いたい。また、大河ドラマ化を契機とした観光振興等の取組について伺いたい。

A 知事

小栗上野介忠順公は、横須賀製鉄所を建設するなど、新しい日本を切り開こうとした英傑であると認識している。群馬県とゆかりのある小栗公が2027年のNHK大河ドラマの主人公に決定したことは、知事としてうれしく思う。高崎市と協力し、ロケ地の提案や撮影支援を積極的に行うことや、小栗公ゆかりの地域資源を活かした県内への観光誘客にもつなげてまいりたい。



薬丸 潔 公明党
(太田市)



▶自動車のBEV化※2に対する支援について

BEV化の展望を見通すことが難しい状況では、可能な限り正確な情報の収集と企業への情報提供が重要であるが、県の取組と今後の方針について伺いたい。

A 産業経済部長

BEVの世界販売台数は、短期的には鈍化が見られるものの、長期的には成長が続いていくと見込まれている。群馬県では、産業支援機構内に自動車サプライヤー支援センターを設置し、BEV化に関する情報の収集と提供等を行ってきた。また9月補正予算では、国際的な展示会への出展支援事業を盛り込んだ。今後も、正確な情報を把握し提供することで、企業の経営判断に役立つよう努めてまいりたい。



鈴木 数成 自由民主党
(前橋市)



▶学校に通えていない児童生徒への支援について

学校に通えていない児童生徒の状況と支援について伺いたい。

A 教育長

学校での学びにつながりにくい児童生徒は、県内に4,700人おり、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを拡充してきた。昨年度、ワンストップ相談窓口『心と学びのサポートセンター「つなぐん」』と3Dメタバース上の学びの場「つなサポ」を開設した。フリースクールへの財政的支援なども含め、関係機関とも連携しながら子どもたちの社会的自立を目指していきたい。



大沢 綾子 日本共産党
(高崎市)



▶ぐんま賃上げ促進支援金について

より多くの企業に支援金がいきわたるよう、申請要件の緩和が必要と考えるがいかがか。

A 産業経済部長

現在の申請状況は、5万人分、25億円の予算額に対し、一割強の約6,500人分、約3億2千万円となっている。申請要件については、賃上げ率5%以上、5万円、事業者当たり100万円、さらにパートナーシップ構築宣言の登録がある。現時点では具体的な見直しについて、内容を示す状況ではないが、現在の要件の中で、必要とされる緩和がどのようにできるか検討しているところである。

9月29日 (月)



斉藤 優 自由民主党
(伊勢崎市)



▶県道桐生伊勢崎線バイパスについて

県道桐生伊勢崎線バイパスの現状と今後の進め方について伺いたい。



A 県土整備部長

現在、道路線形や主要構造物などを決めるための道路予備設計を実施するとともに、懸案の男井戸川調節池に自生する希少種の保護対策や、国指定史跡「上野国佐位郡正倉跡」への影響などの検討を進めている。本年10月には地元説明会を開催し、伊勢崎市との連携のもと、地元の皆様をはじめとする関係者のご理解やご協力をいただきながら、早期事業着手に向けて取り組んでいきたい。



金沢 充隆 つる舞う
(藤岡市・多野郡)



▶公正な職務の執行について

県内自治体で公正な職務の執行を損なう不祥事が相次いでいる。綱紀の保持や内部統制の徹底が必要と考えるが今後の取組を伺いたい。

A 知事

本県の内部統制制度は、「群馬モデル」として、知事が強いリーダーシップを発揮して取り組んでいる。また、4名の弁護士チームによる相談体制を構築し、内部統制の実効性を高めている。今般の県内の不祥事を受け、改めて職員に対して、綱紀保持の徹底と内部統制や働きかけへの対応について周知した。今後も、この制度をしっかりと運用し、組織風土として根付くよう継続して取り組みたい。



高井俊一郎 自由民主党
(高崎市)



▶ぐんまちゃん戦略の将来展望について

ぐんまちゃんのブランド化と今後の展開について見解を伺いたい。

A 知事

ぐんまちゃんのブランド化は、群馬県全体に経済効果を生み出す未来への投資の一つと考え、ぐんまちゃんの認知度向上に向けてアニメ制作などのプロモーションを行ってきた。今後は、プロモーションやグリーティングスペース整備等により、関連商品の売上増加や観光誘客を図り、県内経済の活性化にもつなげたい。また、IPビジネスの側面も強化し、群馬モデルの確立を目指していきたい。



久保田順一郎 自由民主党
(邑楽郡)



民間病院に対する支援について

地域医療を担っている中小規模の民間病院は厳しい経営状況にあるが、県の対応について伺いたい。

A 健康福祉部長

数度にわたり物価高騰対策として医療機関に支援金を支給し、今年度は職員の賃上げ等のための業務効率化や生産性向上に取り組む医療機関への補助も行っている。また、全国知事会を通じ国に物価や賃金の上昇を適時適切に診療報酬に反映させる仕組みなどを求めてきた。県内医療機関の実情を国に伝え、報酬改定や緊急的な財政支援などを求め、県としても必要な対策を検討していきたい。

※1 群馬パーセントフォーアート…県予算の一定割合をアート振興に支出する取組。令和5年に全国で初めて条例を制定した。
※2 自動車のBEV化…「Battery Electric Vehicle」の略で、ガソリンを使わず電気のみを使って走る車。走行中に二酸化炭素を排出しないため、環境に優しいエコカーとして近年世界的に普及し始めている。